

未来への飛躍を実現する教育活動の推進 ～子どもたちが楽しく学べる学校づくりのために～

近年、情報化やグローバル化といった社会の変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきており、最近では進化した人工知能が様々な判断を行うことで、社会や生活を大きく変えていくとの予測もあります。

このように変化する社会に対応し、社会の創り手として、未来社会を自立的に生きる子どもを育むために、教員が子どもたちと向き合える時間を増やせるよう教員の働き方改革を進め、子どもたちが楽しく学べる学校をつくっていきます。

1 部活動指導員の全校配置（中学校9校各1名）

平成30年度は、部活動指導に高い専門性を有する人材(部活動指導員)を、全中学校（9校）に各1名ずつ配置します。

部活動指導員は、これまで教員が担っていた顧問の役割を果たしつつ、実技指導、大会や練習試合の引率等を行います。

部活動の一層の充実を期待するとともに、教員の働き方改革を進めます。

2 スクール・サポート・スタッフの新規配置（小学校3校、中学校1校）

学習プリント等の印刷といった授業準備や採点の補助を行う、スクール・サポート・スタッフを、大規模校（小学校3校、中学校1校）に配置します。

スクール・サポート・スタッフの支援により、教員が子どもと向き合うことができる時間をより多く確保できるとともに、教材研究等に注力できる環境が整うことで、子どもたちの豊かな学びにつなげることができます。

3 プログラミング教育の推進

新小学校学習指導要領において位置付けられた、プログラミング教育の全面実施（平成32年度）に向け、推進校による2年間の研究に取り組みます。「プログラミング的思考」を育むことを目的とした授業を計画的に実施し、実践した成果を、公開授業の実施や指導事例の作成、実践報告会等により他校への普及・啓発を行います。また、企業等との効果的な連携の下、教員研修会及びプログラミング授業の全校実施を計画しています。



【問い合わせ先】 教育指導課（TEL：042-438-4075）

資料のポイント**○部活動指導員****○スクールサポートスタッフ**

予測困難な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成するために学習指導要領が改訂された。



新学習指導要領を確実に実施し、学校教育の改善・充実に努めていくためには、教員が授業や授業準備等に集中し、健康でいきいきとやりがいをもって勤務でき、教育の質を高められる環境を構築することが必要である。



教員以外の専門スタッフを活用し、より一層、教員が子どもと向き合ったり、教材研究したりできるようにし、教育の質を高める。

教員の働き方改革の推進**○プログラミング教育**

情報技術は急激な進展を遂げ、人々の社会生活や日常生活に浸透し、子供たちにも情報を活用したり発信したりする機会も増大している。情報技術は今後も飛躍的に進展していく。



そうした社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいけるようにするため、情報活用能力の育成が極めて重要となっている。



情報活用能力やプログラミング的思考を育むため、新学習指導要領に位置付けられた。